

厚生文教委員会報告書

令和4年3月10日

備前市議会議長 守 井 秀 龍 殿

委員長 中 西 裕 康

令和4年3月10日に委員会を開催し、次のとおり調査したので議事録を添えて報告する。

記

<所管事務調査>

- 備前シンフォニック・オアシスについて
- 備前市教育委員会事務局の組織変更について
- 給食調理場統合事業について
- 休日における運動部活動の地域移行について
- 今後の小中一貫教育について
- 学区選択制について
- 学校・園行事の案内について

<報告事項>

- 給食調理場統合事業に係る新規事業シートの修正について（教育プロジェクト推進課）
- 英語教育（就学前）推進事業に係る新規事業シートの修正について（幼児教育課）
- 人材派遣（保育士）活用事業について（幼児教育課）
- 追加議案（進学等給付金）について（教育プロジェクト推進課）
- 浜山運動公園内の複合型大型遊具の完成及びお披露目について（社会教育課）

<その他>

- 備前市健康づくり推進条例の一部改正について

《 委員会記録目次 》

| | |
|-------------------|----|
| 招集日時・出席委員等 | 1 |
| 開会 | 2 |
| 報告事項 | 2 |
| 所管事務調査 | 11 |
| 備前市健康づくり推進条例の一部改正 | 35 |
| 閉会 | 36 |

厚生文教委員会記録

| | | | | |
|-------|---------------------|----------------|----------|------|
| 招集日時 | 令和4年3月10日（木） | 午前9時30分 | | |
| 開議・閉議 | 午前9時29分 | 開会 ～ | 午後1時18分 | 閉会 |
| 場所・形態 | 委員会室 | 会期中（第1回定例会）の開催 | | |
| 出席委員 | 委員長 | 中西裕康 | 副委員長 | 西上徳一 |
| | 委員 | 立川 茂 | | 森本洋子 |
| | | 山本 成 | | 青山孝樹 |
| | | 藪内 靖 | | |
| 欠席委員 | | なし | | |
| 遅参委員 | | なし | | |
| 早退委員 | | なし | | |
| 列席者等 | 議長 | 守井秀龍 | | |
| 傍聴者 | 議員 | 掛谷 繁 | 尾川直行 | |
| | 報道関係 | なし | | |
| | 一般傍聴 | なし | | |
| 説明員 | 教育長 | 松畑熙一 | 教育部長 | 石原史章 |
| | 教育プロジェクト 推進課長 | 草加浩一 | 小中一貫教育課長 | 岩井典昭 |
| | 幼児教育課長 | 竹林幸作 | 文化振興課長 | 畑下昌代 |
| | 社会教育課長 兼 公民館活動課長 | 波多野靖成 | | |
| 審査記録 | 次のとおり | | | |

午前9時29分 開会

○中西委員長 皆さん、おはようございます。

ただいまの出席は7名でございます。定足数に達しておりますので、これより厚生文教委員会を開会いたします。

本日は、教育部関係の所管事務調査を行います。

***** 報告事項 *****

それでは、所管事務調査に先立ち、執行部からの報告事項をお受けいたします。

○草加教育プロジェクト推進課長 それでは、私から令和4年度当初予算に係る新規事業シートについて、修正差し替えをお願いしたい旨、説明いたします。

給食調理場統合事業として、新規事業シートを提出しておりましたが、その中で事業の内容のところを若干修正しております。

前回の表現であれば、4か所の調理場を一度に統合するというふうな読み取りができるような書きぶりでしたので、そうではなくて現状を把握した上で適正な規模を検討していきたいという内容で変更をさせていただきたいものです。よろしく願いいたします。

○竹林幼児教育課長 令和4年度の新規事業シートにつきまして、修正と追加をお願いしたいと思っております。

まず、一部修正についてでございますが、英語教育の推進事業としまして、来年度ALTの派遣を保育園、こども園のほうに予定させていただいております。

その中で、スケジュール、それから事業期間につきまして、6月をめどに実施のほうをしていきたいと考えております。

期間は、6月から3月までの10か月間ということで計画をさせていただいております。事業期間につきまして、修正させていただいております。

次に、追加でございますが、別のシートになります。人材派遣保育士活用事業としまして提出させていただいております。

こちらにつきましては、保育士の人材確保を進めるという中で現在進めておりますが、こういった人材派遣のほうも来年度活用しながらということで進めていけたらと思っております。

内容としましては、早出勤務、通常勤務等を含めて、募集、派遣の依頼をかけていきたいというふうを考えております。それぞれフルタイム、それから4時間勤務等の勤務となりますが、実施のほうを年間通して進めていきたいと考えております。

なお、この人材派遣事業につきましては、議会初日の補正予算におきまして債務負担行為ということで議決をいただいております。現在派遣の依頼等も進めさせていただいております。

○草加教育プロジェクト推進課長 続きまして、私から追加議案について御説明をさせていただきます。

資料はありませんが、一昨日、3月8日の山陽新聞全県版の記事を御覧になられているかと思えますけれども、瀬戸内市で中学3年生に対して進学就職応援金というものが支給をされるという記事がございました。私どもも非常に関心を持って拝見をしましたがけれども、これを御覧になられた篤志家の方が備前市でも同じようなことをしていただきたいという趣旨でもって御寄附のお申出をいただきました。これを事業化、実施ができるように議会最終日に補正予算として提案できるよう、現在内部で協議を進めているところでございます。早急に準備を整えてまいりたいと考えております。

○石原教育部長 私から、先ほどの説明に補足をさせていただきます。

この篤志家の方の御厚意に沿えるように現在最終日に御審議を賜りたく、3月22日に議案を発送する予定で手続のほうを進めているところでございます。年度内での支給ができるように早急に準備を整えてまいりたいと考えております。よろしく願いいたします。

○波多野社会教育課長 それでは、社会教育課のほうから報告とそれから御案内をさせていただきますと思います。

お手元に1枚物のA4縦の紙のほうをお配りさせていただきましたが、かねてより日生（浜山）の運動公園のかつてわんぱく丸があったところでございますが、そのちびっこ広場に建設中であります複合型の大型遊具「プレイポートワンダーインクルーシブ」がこのほど完成の運びに至りました。来週末には検査をさせていただきますして、引渡しをしていただく予定にしております。

つきましては、市民の皆様にお披露目を行いたいと思っております。3月21日月曜日、祝日になりますが、10時からお披露目を行いたいと思っております。当日は、近くの日生認定こども園の5歳児の方を御招待いたしまして、これは当然自由参加ではありますが、遊ぶところなども見ていただければ幸いかと思っております。

この遊具につきましては、今までも説明してまいりましたが、全国のいろんな障害を持つ子供たち、あるいは公園、それから関係者からコトブキという業者がいろんなアンケートを取りまして、車椅子に乗ったまま登れたり、それから目が悪い子、それから耳が悪い子、それからががらっと音が出たり、色にも配慮されたユニバーサルデザインのこのあたりにはない遊具になっておりますので、ぜひ御覧いただければ幸いかと思っております。

○中西委員長 報告は以上ですか。

あとの資料については、これは教育長が入られてからの資料になりますか。

それでは、今までの教育部関係の報告事項について、質疑があれば発言を許可いたします。

○藪内委員 給食調理場の統合事業についてなんだけど、これは割とごく近いときにいろいろ直したりしましたよね。そういったものは、どうなるんでしょうか。

○草加教育プロジェクト推進課長 厨房機器などの修繕、それから交換は随時させていただいております。建物はまだしも、調理器具、おおむね10年程度使いますとだんだん傷んでまいりま

す。また、それ以上長期になりますと、今度は交換・補修の部品がなくなってきます。ただ、昨年夏に片上小学校の単独調理場を閉鎖した際も、活用できる調理器具等については、ほかの調理場へ移転をしまして活用しております。ですので、これまで整備をした器材の中で活用できるものは、新しく移設をして、そこで引き続いて使っていきたいと考えております。

○森本委員 先ほど課長のほうから、最初の併設した分では1か所みたいに読み取れたというようなことも言われて、私も正直これは1か所にまとめるんだと思っていました。先ほど言うた1か所ではなくて、これを検討していくというお話だったんですけれども、でもこの最初のあれからいうたら1か所ないし2か所ぐらいに集約しようというお考えの下で話を進められているのでしょうか。

○草加教育プロジェクト推進課長 御存じのとおり、市内に現在4か所共同調理場がございます。その中で、平成の1桁台、5年であったり、8年であったりという調理場が2か所、西鶴山と吉永になります。これについて設計自体が古いために、調理場の床面がぬれた状態、ウエットで使うものなのか、乾燥した状態、ドライで使うのか、現在スタンダードはドライでございます。ただ、ウエット建築だけでも、ドライの運用でしているというところ、また平成8、9年にO157がはやった頃、作業員の動線であったり、またその汚染エリア、非汚染エリア、こういったものをきちんと区別するような方針が、衛生基準が定められましたけれども、古い設計のものではそれを十分満たしていないものも残念ながら残っております。

取りあえず、先行して検討したいと考えておりますのは、その平成5年、8年の2施設を集約できるようなものを、行く行くは今度また平成10年代なりますけれども、残り2か所の建築の調理場についても将来的な設計を含めて今回検討したいと考えております。

○森本委員 目的なんかでも集約することで将来の費用負担を抑えていくと書かれているんですけども、給食費の無償化も今回上がっていますし、全国的には時代の背景で給食費の値上げもされているところも、報道も若干見受けられるんですけれども。備前市としての方針は、給食費の値上げ等なんかは、無償化ですからあれなんですけど、単価が上がってきたら補助も増えてきますよね。そういう感じで、食品のほうをどう言うたらいいんでしょう、蕃山荘なんかは民間委託をしてしまったら、正直言うて内容が前よりも悪くなったという苦情も実際はお聞きしているので、中には給食も民間委託を考えているというところもあったり、お聞きしたりしているんですけれども。私としては、やっぱり子供の給食なんで質は落としてほしくない、やっぱり温かいものは温かいもので食べてもらいたいと思うので、配送しようと思うたら距離とか時間とかのことも考えたら、やっぱりそういうことで難しいことも出てくるので、1か所というのはどうかなあっていうふうには思っています。1か所でしたら、事故が起こったときとか、何か問題が起こったときに全部が止まってしまうことになるので。そこら辺を検討してくださることなんだろうけれども、その点どういうふうにお考えなのか、ちょっとお聞かせください。

○草加教育プロジェクト推進課長 同じようなことを私どもも懸念もしております。特に、ウク

ライナの関係があつて小麦粉が値上がりをするとか、昨年春先から牛乳、食用油が値上がりをしており、現在の給食費が妥当か、適当かという、非常に厳しい運営を日々続けております。

ただ、調理場それぞれの単位で仕入れをしておる食材、これが例えば1か所から大量に注文するという事になれば、幾らかでもコスト面が有利になったり、また一括して大量に調理をすることで効率がよくなったりという効果もあるかと思ひます。

1か所だけにしてしまうと、例えば何か事故があつたときに全ての給食が止まってしまうという懸念も十分念頭に置きながら検討を進めていきたいと考えております。

○西上副委員長 効率重視ということで、それはよろしいんですけども、私も子供の頃、給食といやあおいしいから楽しみで、子供の頃は楽しみでしょうがねかつたんですけど、味としては落ちるということはないんでしょうね。

○草加教育プロジェクト推進課長 もちろん私も小学校、中学時代、給食をおいしくいただきました。現場の調理員、それからまた献立を作る栄養士もそのあたりは十分、もう十分というか、もうそれを大前提に、献立を作ったり、また調理に取り組んでおりますので、先ほど森本委員おっしゃられたように、味が落ちたということが起きないように十分気をつけていきたいと考えております。ありがとうございます。

○西上副委員長 もう一点、財源が一般財源ということなんですけど、実施設計委託料の中で、国庫支出金とか交付金とか、こういうのは使えんのんですか。

○草加教育プロジェクト推進課長 実施設計につきましては、今回全額一般財源で考えております。実際に工事にかかりましたら、できる限り有利な補助金、起債等も活用してまいります。

○立川委員 これはあくまで検討するんやということの事業だと、私も理解をしておつたんですが、主な事業費というところで、5年度から6年度は整備工事で15億8,400万円上がつたんですね。工事監理委託もそうですが、6年度の夏休み中に試運転、調理等を行い、新体制で稼働すると。もうおっしゃつたのは、何か検討じゃなくて決まつたように受け取れるんですが、この辺はどうなんですか。長期のプランとしたら、もうこれは造るよと、一応皆さんの手前検討するよというふうに見えるんですけど、この辺の流れはどうなんですか、もうこれは決まつたんですか、15億8,400万円という数字が上がっていますけど。決まっておるのであれば、場所とか、おっしゃつたように何食ぐらいするとか、そういうのはあつてこういう金額が出るんだと思うんですけど。その辺のちょっと申し訳ない事情といいますか、御説明いただきたいんですけど。

○草加教育プロジェクト推進課長 今回の予算につきましては、調理場を統合する検討を行う、また実施設計を行う予算でございます。ただ、この検討結果を踏まえまして、令和5年、6年にかけて場所の選定だったり、設計が順調に進みましたら工事に取りかかりたいということで、ここに事業費を上げさせていただいております。

ただ、現状もうこれは決まつたことかということであれば、まだそこまでではないと、私は思

っております。

○立川委員 すみません、課長は苦しい答弁になるかと思いますが、決まってないということであれば、それを信用したいんですけど。

そしたら、こういう金額は出てきますか。ある程度概算でもこの金額が出るということは、やるんだという前提で動かれているような気がするんですけど、その辺は大丈夫なんですか。

市長は、私はビジョンだけお示しして、皆さんが練ってこられるんやということをおっしゃっていますけども、これはもう金額が出ているじゃないですか。これは、失礼な言い方、天ぷらの金額じゃないでしょう。ある程度たたいての金額だと、私は判断しますが。何かその辺おかしい気がするんですけど、何か詰まっていたら吐き出してもらったりいいし、だんまりするんならだんまりしてもらっても結構なんですけど。

実施計画前の検討段階の予算、この金額上がっています、次の計画で工事金額が上がっています、監理委託料が上がっています、スケジュールも決まっています、これは非常に我々とすれば、私だけかもしれませんが、委員会に対する信頼がちょっとあれなんですけど、その辺何か御説明ができるのがあれば、それは今の課長の立場では、いや今回は整備環境の検討費用ですと、ならそれで結構ですけど、それで理解していいんですか。あと何かあるんですか。

○草加教育プロジェクト推進課長 こちらに上げております事業費、そのうちの整備工事につきましては、大まかな概算の金額として思っているもので、詳細な積み上げをしたものではありません。ただ、先立って浅口市なりが給食センターを更新しております。そのあたりの聞き取りをした中で上げている金額ですので、その金額について、詳細な積算はございません。

ただ、じゃあこれを実際にやるのかっていうところは、今回の委託の中で適地を見つけ、また規模を探す中で、整備工事費については増減をしていく可能性はあると思います。最終的に、またこれだけのお金をいただきながら、統合についてというよりは現状の施設の改修のほうがいいのかという結論にも行き着くかもしれません。ただ、私どもとしては、もう築後25年を過ぎている施設、30年近い施設について大規模な改修をするよりは統合したほうが衛生的に給食が作れるんじゃないかと考えております。

○立川委員 最初に出たように、割合行政さんというのは、修理してお金を入れて、何10年もしないうちに、またそれを取り壊してという懸念のお話が藪内さんからあったんですけど。もうそれやったらお金入れるより新しいもん造ったほうがいいよという結論、今言われましたじゃないですか。そういうふうを考えていらっしゃるわけでしょ。教育委員会としたら、もう4つ統合して新しいものを造りたいんですけど、そう言わはったほうがきれいなんじゃありませんか、どうですか。

課長、今正直に言われましたよ。今のやつを修理しながらごそごそして費用入れるよりも、新しいのを考えたほうがいいのかと、それは教育委員会としてのお考え方というふうに理解してよろしいですか。

○石原教育部長 当然、委員御指摘のところにつきましては、様々な角度から我々も検討を進めているところであります。その中で、県内でのそういう浅口市さんの例の実情などもいろいろ拝見、参考とさせていただいているところであります。現状の既存の4か所でこのままじゃあ5年、10年考えていくとどういうふうなシミュレーションが成り立つのか、いやいや統合を進めて、そのスピード感というのは当然検討としては入ってこようかと思えますけれども、既存の4か所をどこまで使っていくのがいいのか、どこかの時点で新しい施設を考えていくべきではないか、トータルコストも含めて、今後の子供たちの人数の推移であるとか、そういった物価の話もございました。様々なコストを考えていく上で、かつ質の確保、味の確保、そういったことも様々な角度、いろんな要素を含めた検討が必要であると、それを今現在行っているところでございます。

ですから、いろんな考え方がある中で、最善、最適なものを選択していく、そのための予算であるというふうに御理解をいただきたいと思えます。

○立川委員 部長のおっしゃるのは分かるんですよ。検討もしていただいたらいいんです。もう我々素人ですから、もう結構なんですけど。考える予算というふうな、検討材料の予算ですとおっしゃるんですけど、これはどうもこのペーパー見る限り、やっぱり結論が先にあるんですね。その疑念は拭えないんですよ、御理解してくださいとおっしゃられても、理解の先にはないんですね。

というのが、さっきもちょっと申し上げましたように、現場はやっぱり次の方法を考えて、これがいいんじゃないかという結論出しておられるわけですよ。というふうに理解をしました。それは理解できました。

いろいろ考えていきたいなという、部長の思惑も分かります。分かるんです、ただ中身はちょっと理解しづらいなあと。じゃあこれはスピード感があるのかないのか、現場は常に動いているわけですね。さっきおっしゃったように、床のドライ、ウエットでも、ドライ塗料が2年保証はしてくれていると思うんですけど、それ以降になると、また塗り替えをせないかんと、調理器具もそうですね、スライサーにしても、年に一遍刃替えなあかんわけですよ。何ぼでもお金が要るわけですね。そのまま4か所にしといていいのかというのを考えたときに、統合もいいんじゃないかというふうなことの方向性が出たんだと思えます。

ただ、リスクヘッジで1か所でいいのかとか、そういう検討なら分かりますけど、これはあまりにも目に見えたような、何かさっき言いましたように、詰まっとんやったら吐き出してもらったらいと思うんですけど。それができなければ、そのまま結構ですけど。

部長、本当にこれは必要だと思われませんか、必要でないと、そのどちらかでお返事いただけらと思えます。

○石原教育部長 必要であると考えた上での御提案をさせていただいております、はい。

ここに記載をしております主な事業費、課長も申し上げましたとおり、じゃあ工事費としては

どれぐらいの予算を想定されていらっしゃるかとということまでも含めて、私ども検討している現段階での概算数値であると御理解いただきたいと思ひますし、全くのノープランではないということで、迅速かつ最善の選択を私ども目指していきたいということでございます。

○青山委員 いろいろ議論をお聞きして、私もこの実施設計委託料が出ている、これについても先ほど来、調査研究をしていくんだということなんですけど、それはどういうふうな組織でやられるんでしょうか。

○草加教育プロジェクト推進課長 現在も各調理場の栄養教諭と事務局のほうで定期的に会合は持っておりますが、そのメンバー、プラス設計に関係した職員を集めて検討していきたいと考えております。

以上です。

○青山委員 やっぱりまずそのところをしっかりと研究していただいて、例えば先ほど来出ている何か所必要なのか、場所はどこにしたらいいのか、あと人件費でありますとかというふうなこともかかってくると思うんですけど。そういうふうな検討して実施設計へ委託するというふうなことのほうがいいんじゃないかなあと思うんですけど、もういきなり4月から業者選定ということで、もうある程度実績設計の見込みがついているんじゃないかなあとも思ったりもしておったんですけど、まだ何か所というのは決まっていないとか、場所も分からないということで、その上で調理場の整備工事については、これは何か所、どのようなものを造るということで、この概算もはじかれると思うんですけど。

例えば、1か所にするのか、2か所にするのか、もう、1か所違えば、相当金額変わってくると思うんですけど。その辺をどのように見積もられたんですか。

○草加教育プロジェクト推進課長 先ほど森本委員の御質問にお答えをしましたように、4調理場のうちで築25年、28年のものが2つございます。まずは、その2つの機能をカバーできるようなもの、ただ残った2つにつきましても、その後またどんどん年数を経過してまいりますので、そこを将来的にまたどうしていくのかということまで検討できればと考えております。

ですので、当初は現在の4か所から、数で言えば3か所になるような検討で今は考えております。

○青山委員 中学校の統廃合のときもそうだったんですけど、4か所から2か所というふうなことで、どうも最初の見積りというんですか、その辺でしっかり、将来的に2か所になるのであれば、もうそこでお考えいただいたほうがいいんじゃないかと思うんですけど、その辺はどうでしょうか。

○草加教育プロジェクト推進課長 将来的にというところは、本当に十分検討した上で、また部長も先ほど答弁しましたが、児童・生徒数の今後の推移等も含めて、市内へ配送できる適地を探して、また適正な規模で考えてまいりたいと考えます。

○藪内委員 かなり前に資料をいただいたかも分かりませんが、今現在この4調理場で何食分を

されているのでしょうか。

それと、ただいまもうこれが始まる2年後であるとか、5年後、何食分を想定していろいろ検討されているのでしょうか。

○草加教育プロジェクト推進課長 今現在、市内調理場4か所で作っておりますのが約2,300食です。調理場の給食調理能力としましては、全体合わせて3,800ございます。ですので、今現在は能力よりも十分余裕のある状態で作っております。子供さんの将来推計については、今、数字は持っておりません。申し訳ございません。

○藪内委員 先ほどの答弁を聞いておりますと、3か所になるというふうに言われたのでしょうか。2か所古いところを1つにすると、ほかの2つと合わせて3か所。その2か所合わせたものの、予定ですけど、この工事代金が約16億円かかるという感じですか。4か所全体をまとめて16億円。

○草加教育プロジェクト推進課長 今現在の調理場を4か所を今度新しくできるものに1か所増やすとともに、現在中学校区でもって給食を調理している調理場が異なるものがあります。

例えば、備前中学校で言えば、西鶴山調理場から運んでおります。片上小学校、東鶴山小学校は、伊里共同調理所から作って運んでおります。また、伊里中学校は伊里から運んでおります。これを現在の考えでは中学校区単位はなるべく同じ調理場で作ったもので食べていただきたいということで、現在の配送先を少し組み替えるようなことを視野に入れております。取りあえず今現在頭に描いているイメージとしましては、新しい調理場とやや新しい伊里と日生の3調理場で給食を作っていくような計画をつくれるかどうか、検討をしていきたいと考えております。

○藪内委員 予定児童・生徒数であるとか、その配送先であるとか、その辺をよく本当に検討されて、また将来、また触らなければいけないとかじゃなく、もう本当よく検討されて、よろしくをお願いします。

○立川委員 ALT、英語教育の推進事業の件で、審査にならない程度ということでお尋ねをするんですが、これは派遣ALTが3名と、英語に親しむ活動をするんですと。3名はどのような募集方法をされるのでしょうか。

○竹林幼児教育課長 こちらにつきましては、派遣の委託料ということで予算のお願いをさせていただいております。議決をいただきましたら、派遣業者の選定ということで、公募等の方式で選定を実施していけたらと、現時点で考えております。

○立川委員 委託ということで、私も理解はしとったんですが、この委託先というのはかなりあるんですか、それともその委託先はどのような選定基準でされるんですか。

○竹林幼児教育課長 こちらが示した条件で対応できる業者さんがどれくらいあるかということによるかと思うんですけども、そういった業者さんに応募いただきましてプロポーザルによる選定、こちらの仕様に応じた提案いただいた中で選考を実施していければと考えております。

○立川委員 例えばこれで派遣が決まったよ、委託先が決まりましたよ、例えばAさん、メアリ

一さんでもいいですね、その人がずっと6月から3月まで10か月固定されるんですか。それとも、委託先のこうで、Aさんが入ったら、メアリーさんが8月でちょっと替わるよ、ケリーさんに替わるよとか、そういうのがあるんですか。固定されるような委託になるのでしょうか。

○**竹林幼児教育課長** 基本的には同じ方が年間来ていただくような方向で考えていきたいと思っております。

○**立川委員** 続いて、同じように人件派遣、保育士さんの活用なんですが、これも派遣内容が早出さんが3人、通常勤務が3人、4月からもうはやりますよと。委託料を見てもみますと、通勤手当、退職手当引当金等も含まれますよということで、これも派遣先、何先かあるんですか。プロポーザルで応募してくれるほどあるんですか。

○**竹林幼児教育課長** こちらの派遣業者さんですけども、県内等でそういった人材を扱っている業者さんが数社ございます。そういったところへこちらでも声をかけさせていただきまして、派遣がかなうような業者さんに依頼をかけていきたいと考えております。

○**立川委員** これは今保育士さんがどこも不足しているよというようなところで、皆さん、各自治体もそうでしょうけど、私立のほうもかなり集めていらっしゃるように聞きます。そういう意味では、売手市場なんで、これは確保が可能なんですか。見込みは、どうなんですか。もう全く当たっておられませんか。

○**竹林幼児教育課長** 委員さんおっしゃるとおり、こちらの業界かなりやはり登録数等も限られておるような状況というのは伺っております。

そういった中で、こちらのほうへ派遣がかなうような、全く可能性がないというようなことではなく、幾らか業者さんによっては派遣が可能かなあということではお伺いしております。

○**立川委員** 来てくださればいいですけど、神戸のほうではかなりもうないと、四国、岡山が狙い目だということで、この派遣先、かなり動いているというお話を実は最近聞いたところなんですけど。もう都市部ではないと、もういわゆる地域部で、眠ってらっしゃる保育士さんという言い方していましたが、それをもう地方部しかないよと、どうも京阪神からすると、北のほう、丹波のほうももう刈り取った後らしいです、お話を聞くと。そうするとかなり厳しいとは思いますが、その場合にやっぱりプレミアといいますか、プラスをどうもつけるようなお話も聞いておりますので、その辺しっかり派遣先を選んでいただけたらと思います。

この方たちも大体固定という概念でいいんですかね、委託で。

○**竹林幼児教育課長** 基本的には年間を通して、固定という方向で考えております。

○**中西委員長** 新規事業シートについてよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、追加議案について。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

浜山の運動公園遊具の完成について、よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、報告事項はこれで終結させてもらってよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、所管事務調査に移る前に、ここで暫時休憩したいと思います。

午前10時12分 休憩

午前10時25分 再開

○中西委員長 それでは、休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

***** 所管事務調査 *****

次に、所管事務調査を行います。

資料の提出がございます。

執行部より御説明を願います。

○松畑教育長 それでは、私のほうから備前シンフォニック・オアシス構想案（第2次）及び国際教育都市・備前市構想案を中心に説明をさせていただきます。

特に掛谷議員から直接的には一般質問がございましたので、そこでお答えしているのが中心でございますが、少し多岐にわたっていますので、それをまとめたものです。

第1次案として提案してございましたけども、この第2次案を作成してございまして、既に教育委員会会議でも説明をいたしております。

特に、第1次案と第2次案でどこが違うのかということ、主として2番の事業概要の（4）です。備前市民を中心とした意欲・能力の高い児童・生徒を対象とし、日本語と英語のバイリンガル教育を行い、奨学金制度も導入したインターナショナルスクール、当面は小中一貫の義務教育学校、将来的には幼児部から高等部までと、一般社会人から高齢者を対象とした生涯学習の場を提供するインターナショナルプラザとを併設するという、これが1次案と2次案で異なっている点であります。

そのことを踏まえて、それでは全体として国際教育都市・備前市はどのような構想に基づいているのかということのもう一枚のほうの中身で紙で少し薄くピラミッドのような形が見えると思いますが、この基本理念と実際の推進の方向性を示したものです。

基本理念から申しますと、2050年を目指して新しいこれからの子供たち、これからの人材育成はどのような人材像を持って教育をしていくかということについては、主として一般にも言われたこととございますけども、3つのリテラシーと言っていますが、ここでは能力というふう置き換えていただければ構いません。

1番目が英語力、2番目がICT力、3番目が環境力と、この3つの力が少なくとも基礎的なものを含めて全ての人がこれからは必要な能力となってくると考えております。

これからの教育としての最重要課題の1つは、英語教育を重視した国際教育であるという観点から、学校・園内外の全ての教育とか、文化、社会活動において可能な範囲、英語教育を重視し

た国際教育を重視して、国際教育都市・備前市の実践に努力するという方向性を持っているものでございます。

2番の推進方策でございますが、下のほうから説明いたしますが、そこにありますように、市内の全保育園、こども園、小学校、中学校、高校における国際教育、英語教育の推進です。

これは、議会のほうにも提案をしております接続教育マネジャーの新設とか、あるいはALTの増員、今回は保育園、こども園に3名の増員をお願いしておりますが、あるいは国内及び海外との交流などを、全ての幼・小・中・高において行うと。特に英語教育だけじゃなくて、国際教育ということを重視していますので、全ての教科、例えば国語科において言えば、日本語と英語との関係で比較検討して、日本語のよさとか、問題点とか、課題とか、そういうものを国際的な観点から日本語を学んでいくと、例えばそういうふうにして、全ての教科や全ての活動が国際教育の方向性を大切にしたものというものです。ですから、これは全ての子供たちが対象になるというものを一番底辺にしたものです。その上側に、三石、吉永地区を中心にして国際教育、英語教育重点地区といたしました。

これも最初英語特区という議員からの議会での提案もございましたが、それも含めて、今、英語特区というのはもう20年ぐらい前から、例えば県内で言うたら総社市などが実施しておりますが、これはほかの教科の授業を少しカットして英語に授業を増やすというふうな感じのものが中心であります。そのようなことは、現時点ではほぼ不可能に近いんです、英語の授業を増やすことは。というのが道徳が教科化され、プログラミング学習だとか、ICTの関係とか、いろいろなものが増えてきて、もう授業はほぼ満杯状態にある。そのような中で、さらに英語を増やすというのは非常に難しいので、実際的には英語は例えば朝の時間に10分程度とか、昼休みの二、三十分に英語の歌を流したり、英語の簡単なゲームをすとか、あるいは年間を通して英語のコンテンツとディスカッションのスピーチコンテストをやるとか、何か劇をやるとか、英語授業以外のところ、もう英語授業でももちろん充実させますが、そういうところでもやって、三石、吉永地区の6校・園、こども園、小学校、中学校、合計6校・園を一つの学園とするよう、幼小中の一貫教育を行っていくという、全ての保育教育活動において英語教育を重視した国際教育を推進していくというものであります。

その上に、インターナショナルスクールを位置づけております。ですから、インターナショナルスクールと言ったら多分多くの方が最初にイメージされるのは、全国にあります外国人や帰国生を主として対象にしたような各種学校としてイメージされると思うんです。全国にも約100校ありますけども、その9割程度はそういう外国人、帰国生を主たる対象とした各種学校になっております。そのような側面は、本市において推進しようとしているこのインターナショナルスクールの一部には入りますけども、中心はそうではなくて、そこに1番から7番まで書いておりました。

まず、1条校。これは学校教育法の1条に相当する学校を言いまして、そこを卒業すれば卒業

認定がされるという、そういう1条校。

それから、国際バカロレア認定。これも議会で少し説明いたしましたけども、これが現在世界で最も優秀な世界一のカリキュラムというふうに認証されている、非常に有名な評価の高いバカロレア、スイスのジュネーブに本部があつて、これを受けるには全ての教育目的から、内容から、方法から、スタッフから、授業の具体的な中身から、もう全部を2年ぐらいかかって実地調査もされたりして、厳しく調査された上で、このバカロレア認定校というのが認証されるものです。

ですから、実際に申請してからでも約2年が普通はかかる訳ですが、そういうものを目指したい。県内で言いますと、岡山理科大学附属中学校・高等学校、それから朝日塾中等教育学校、中学と高校が一緒になった学校、中等教育学校などがございます。そういう国際バカロレア認定校を目指す。

それから、学校法人を設立したりして、基本的にはもう誘致する形での検討を行いたいと思っています。誘致と言っても、いろいろな形がございますので、全てのことを、例えば議会でも紹介がありましたイギリスの有名なボーディングスクールでありますハロウ校などの誘致ということも選択肢の一つとしては検討もいろいろいたしました。これはあまりにも学費が、その他が高いんです。年間800万円とか、1,000万円とかという。それは、とてもじゃないけど備前市に適合しないというふうに判断をし、あるいは神石インターナショナルスクールというのが広島県の神石高原町にあります。約8,500人ぐらいの人口です。それに600万円から700万円かかる全寮制のインターナショナルスクールが2年ほど前からできております。それもちょっと大き過ぎるといふか、費用がかかるし、私たちはできれば300万円、400万円程度のものに抑えて、できるだけ財団法人などをつくり、それから奨学金もしっかり出すことができるような形のものをして、全ての子供たちが備前市内を中心に、他県あるいは他の国の人たちを対象にした学校にしたい。

それから2番目は、小中の一貫義務教育学校であります。

小中一貫校というのはいろいろな形がありますが、それでも一番望ましいといふか、形が義務教育学校でありまして、これは小・中が一つの学校ということで、校長も1人が基本的にはいるというような学校です。小中一貫教育の一つの望ましい形をここで示したい。

それから、基本的には全寮制で備前市の近いところで通学したいという子は、それは通学してもらっていいだろうと。ただ、全寮制というのは非常に今までの国内、あるいは外国の例を見ても、授業で日中に学ぶこともさることながら、寮での生活を共にいろいろな国の人やいろいろな人と生活を共にし、ディスカッションし、いろいろな活動を共にすること、これが非常に大きな意味を持っていると思っています。

それから、英語イマージョン教育というのは、これは世界的にもうカナダ中心に最初始まりましたが、英語を通して全ての教科を行う。ここではもちろん日本語とか社会科とか、そういう一

部の教科などは日本語で行います。それ以外は、全て英語で行うというのが英語イメージ教育であります。

それから、外国人、帰国生なども含みます。

それから、奨学金制度を充実して、非常に全ての子供が意欲と能力さえあれば誰でも入れるような、そういう多様な子供を対象にしたいと。

それから、イングリッシュビレッジ、今年の夏にも山編と海編を予定しておりますけども、例えば海編では大多府島でのトヨタカローラの研修センターをお借りして、1泊か2泊の英語漬けでの英語体験をする子供たちを対象に、そういうイングリッシュビレッジなども予定をしている。

それから、インターナショナルプラザというのは、本当に全ての高齢者も含んで一般社会人などが楽しく英語や国際的なものに触れることができるようなもの、そういうものを併設するという形にしております。

ですから、この下から言いました全幼・小・中・高の中で、それからその上に重点地区的に三石、吉永地区を取りあえず重点地区として魅力化をし、ここで、今までの英語特区などでもそれを行うことによって移住者も出てきたりして、生徒数は増えているという傾向が多く英語特区、その他でございますので、そういう三石、吉永地区でそれが大きな魅力になって児童・生徒数の増ということを目指したいと。その上に、インターナショナルスクールがありますので、この国際教育全体の主流の中の大きな中核的なものとしてインターナショナルスクールを考えていますので、どっか別個にインターナショナルスクールが外国人などを中心にしたものとしてあるわけではありませんということを、このピラミッドは示しているんだとお考えください。

なぜ備前市なのかというと、これもちょっと議会で説明いたしましたが、令和版旧閑谷学校というふうに、私は申し上げていますが、本当に閑谷学校というのは、御承知のように世界最古の庶民を対象にした公立学校です。それを擁している備前市が現在最も望ましいインターナショナルスクールの最先端をいくような学校を備前市に作るというのは、大変歴史的にも大きな意味があると考えております。

規模も、先ほど言いましたように、神石高原町では8,500名の人口、備前市の3分の1、あるいは4分の1近くの人口しかいませんけども、そこでもやられているんで、備前市で望ましい形を持って、ほかのインターナショナルスクールでもどんどん移住者と子供たちも増えて、そのうちゲストルームやハウスや移住者のためのハウスを建てるということに将来はなっていくだろうと考えておりますけども。そのようなもので、これから新しい社会に最も望ましい、先ほど国際バカロレア認定ということを申し上げましたが、そういうものを含めた非常に高度なものでありますので、スタッフとか、その他に要する費用が少し普通の学校とは増えますので、少なくとも二、三百万円程度はかかるだろうと、寮費なども含めてであります。そういうふうに考えております。

これは、3年計画ぐらいで考えております。この下の2つですね、全ての幼・小・中・高での国際教育、英語教育及びその上の三石、吉永地区の国際教育、英語教育重点地区は、令和4年度、この4月から進めていく予定です。これは、既に校・園長に2月の時点で説明をいたしております。これは4月からやってもらいますということは、もうお願いをしております。

ですから、この下の2つは来年度から早速各学校で、程度の差こそあれ、全体的に進んでいく。その上に、これから計画をいろいろして、できたら3年後に開校ができるような、それぐらいのスピード感で検討し、今、備前シンフォニック・オアシスもそうですけども、第2次案の段階ですけども、第3次案、4次案と。具体的にして、3年後にはこのような望ましい学校が開校できるようにしたいという、これはあと基本的にはそういう問題であります。いろいろと新しい内容を含んだり、いろいろ課題も多くあるので、考え方もいろいろあると思います。議員の皆さん方、委員の皆様方の意見や市民の皆さんが、本当に市民の方々が喜ばれるものじゃないといけないので、どこに開校するのかというのは、まだ何も決めておりません。例えばという形で、議会でも説明いたしました、例えば旧神根小学校だとか、三国小学校とか、そういうところが一つの有力な候補になるかなあというぐらいのところは、絵を描きつつありますが、ほかにも適地を備前市内に、もう港の海に近いほうが良いという考え方もあるでしょうし、多くの新しいインターナショナルスクールは、山の中の自然の豊かなところにあって、その自然の中で学んでいくということが非常に重視されています。それがまた非常に大きな意味を持って、成果を上げております。ほとんど最近のものは全てと言っていいぐらい、そうです。

例えば、軽井沢に大きなすばらしいインターナショナルスクールが数年前にできております、これも軽井沢の自然豊かなすばらしい場所にできておりますが。そういう場所などもこれから考えて、できたら3年後に開設ができるような形で、これから進めていきたいと思っております。

取りあえず第1次の説明です。いろいろ御質問なり、御意見を忌憚のないところをお聞かせいただいで、みんなの前進、全体が本当にすばらしい教育体制の中で、国際教育都市備前市として前進していくように願っています。よろしく願いいたします。

○石原教育部長 私のほうから、資料として新規事業シートになりますBSO、備前シンフォニック・オアシス事業の新規シートを御覧いただきたいと思っております。

先ほど教育長から説明がありましたとおり、構想案の2次案とリンクしているものでございます。中ほどの事業の内容の(4)番、内容1から4までありますけれども、2事案に呼応してリンクしているものというふうに御覧いただけたらと思います。

それから、スケジュールにつきましては、大きく事業内容の1から3番のアウトドアに関するもの、それから4番のインターナショナルスクールに関するものというふうに捉えたときに、スケジュールの上段が事業の(4)に当たり、下段のほうが1から3のアウトドア関係、そういうふうに御覧いただけたらと思います。

主な事業費につきましては、(1)から3番が上段、(4)が下段という形になります。これ

は、もういわゆるマンパワーに関するものという形になっております。

財源としましては、まちづくり応援基金ということでございます。

○中西委員長 じゃあ、ここで1つ区切りますかね。

皆さんのほうから、質疑がありましたら発言を許可いたします。

○青山委員 壮大な構想ということで、なかなか理解ができない部分がありますので、おかしな質問になるかもしれませんが。

まず、このインターナショナルスクールを1つ頂点といいますか、基本として、三石、吉永地区での国際教育、英語教育の重点地区、それから市内全校・園における国際教育、英語教育の推進というふうな、裾野を作っていくということなんですけど。

このインターナショナルスクールというふうなもので、例えば(1)の1条校、卒業認定をというふうなことなんですけど。ネットで調べてみますと、中学校相当のインターナショナルスクールを修了しても学校教育法上の中学校を卒業したことにはならないため、公立高校では原則として受験資格が認められない。ただし、私立高校においては、各校ごとの判断次第となっていると書かれてあるんですけど、これは1条校で卒業認定ができるものと考えられとるということなんですけど、この見込みとか、ほかの事例というのはどんなものがあるんか教えてください。

○松畑教育長 先ほど紹介しました、全国に100校あるぐらいの中の90校についてはそうです。ですから、あと10校ぐらい1条校と称されるようなものがあります。1条校と言ったら、各種学校ではなくて、そこを卒業すれば卒業認定がなされる、文科省の学習指導要領などに基づいて実施しているということが認められる学校が1条校ですので、多くのインターナショナルスクールについては、1条校になっていないというふうに御理解ください。

それで、それじゃあ1条校というのがどんなものがあるのでしょうかということがありましたので、ちょっと紹介しますと、ここに私が中心的だと思われるのは7校、8校あるんですけども、一番古いのはもう40年ぐらい前から加藤学園の初等学校、中等学校、高等学校、沼津市にあります。これは先ほどのイメージプログラムの日本で初導入された、だからちょうど30年と、ですから1992年です、これは1条校で全ての教科の内容をIB、IBというのは国際バカロレアの方式で行う学校として、もう30年前から加藤学園がなされとる、これが一番古いです。

それ以外には、最近この10年ぐらいの間にいろいろありますが、例えば関西地区でいきますと、これは関西学院の千里国際中等部・高等部というのがございますが、これも1条校、それから太宰府にあるリンデンホールスクール中高等学校、これが2013年に認定された1条校。これは、ちゃんと1条校として認定してもらおうということを、文部科学省、あるいは私学協会、あるいは県庁、学校の認定表や教育課程の特例校の認定を受けなきゃいけません、文科省などから。そういう手続が必要です。

それから、軽井沢の話先ほどちょっとしましたが、これは2014年9月ですから、もう8

年前に開校されているものです。これも長野県から学校設置計画の承認を得、文科省から教育課程の特例校としての指定も受けている、それから公益財団法人としての認定を内閣府から受けているものです。

それから、先ほどちょっと言いました広島県の神石高原にあります神石インターナショナルスクール、これが2020年だから2年前に開校しているものです。

それから、幕張インターナショナルスクール、これが千葉県の幕張にありまして、2009年から、幼稚園の年少組から小学6年生まであるようです。

それから、群馬にぐんま国際アカデミーというのが太田市に、これは特区としての第1号で認定されたものであります。

それから、アサンプション中学校・高等学校というのが大阪府箕面市にありまして、カトリック教系ですけども、1条校です。

などなどここに主要なものだけで8校ほどあるんですけども、だから全国に約10校ぐらいがあります。それ以外は、今、青山委員から説明があった各種学校として、そこは卒業した認定がされないという、特に公立学校ということです。

○青山委員 それで、国際バカロレア認定校を目指すということで、これもかなりハードルが高い、2年ほどの審査も必要だということですし、そのカリキュラムと、それから要するに1条校ということになりますと、文科省のカリキュラムがきちっとできないといけないということなんですけど、それは両立できるんでしょうか。

○松畑教育長 両立しないと1条校に認定されません。

ですから、1条校であるということは、実際に国の教育課程、特に学習指導要領などに基づいて学習をしたと認められる学校であるということ、プラス国際バカロレアの認定を受けているかどうかという、そういう問題です。

○青山委員 もうそうなりますと、例えば設立をした後、条件がそろわなくて、それで1条校に認定されなかったという場合に、例えば中学校が卒業できなかったといいますか、いう場合の学歴といいますか、それはどうなるんですか。

○松畑教育長 いろいろ私も特にここ二、三か月で相当全国の事例を調べてきましたけど、そういう学校は見当たりません。

ですから、まずは1条校を認定していく、あるいは先ほど言いましたように、県の学校設置の基準を満たし、承認していただき、1条校として教育課程の特例校としてやってくださいという認定を受けた上で、学校も開校しますので、ですから国際バカロレアについては実施して、2年間ぐらいの実績が必要ですから、バカロレアは認定できるかどうかというのは分かりませんが、今まで調べた範囲内では努力して認定されてない学校はどれも見当たりません。

ですので、青山委員の趣旨でのことが途中開校したけれども、卒業できませんでしたということは、ちょっとあり得ないと考えております。

○青山委員 要するに、まずは1条校の認定を受けるということで、それぞれ卒業の単位といますか、カリキュラムも達成できるということで、その上で国際バカロレアの認定校というふうなことでよろしいでしょうか。

○松畑教育長 はい。

○青山委員 それから、学校法人を設立して誘致をすると。ここにあるような構想のトップに立つということは、市のほうで作ると、インターナショナルスクールをとということであれば、かなり末端まで考えとか方向性が決まると思うんですけど。これは、誘致をしていくという場合に、そういう教育長の思われる構想の学校というのも、もうかなり絞り込んでないかと思うんですけど、そういうところはあるんですか。

○松畑教育長 既成の、先ほどちょっと中西委員からも新聞記事の紹介がありましたような、外国のハロウ校だとか、ラグビー校とか、などなどの英米を中心にしたボーディングスクールなどが日本に導入されているいろいろあつたりしますけれども、そういうようなものは少なくとも現時点では考えておりません。

どこに誘致して、例えば神石のインターナショナルスクールのようなものを誘致してくるという考え方としてはありますけど、これも内容的な面や経費、その他の考え方として、これも考えにくいなあとは思っていますので、あとは学校法人のような形、公益財団法人を作り、学校法人を作って、そこが実際に運営しているのまで、広義の誘致だと、私たちは今のところ判断しとるんですけども。どっかの既成の学校をここに備前市の中で作るということだけが誘致ではないだろうと考えています。

だから、市営の全部何もかも市がやってしまうという形ではないけれども、学校法人や公益財団法人やDMO方式なども導入して、それでデスティネーションのような感じのものを、観光的なものなども重視したような形で取り上げていくという形になろうかと思います。

そして、ちょうど幕張インターナショナルスクールが、最初は実行委員を見ていたら、準備の段階ですよ。準備の段階での実行委員長は知事なんです。それから、実際には準備委員会がずっとあつたりして、実際には県や市からも一部入っているようですが、実際には学校法人のような形で進めているところがほとんどと思われるので、そういう形を今のところ考えています。

○青山委員 市営でもというふうなことをおっしゃったんですけど、そうなりますと、この設立に関して、あるいはその後の維持とかというふうなことというのは、市が関係をしていく、あるいはしていきたいというふうなお考えなんですか。

○松畑教育長 この辺のことは、どれだけ市が責任を持って、どれだけ財源をそれに注入すべきであるかというのは、これは議論のいろいろあるところだろうと思います。その辺は、皆さんの意見をいろいろ聞いて、そのバランスを考えていかないかと思っていますが、可能な範囲、例えば奨学金、その他を、例えば軽井沢については10億円ぐらい奨学金だけでも集めたそうで、7割の生徒が何らかの形で奨学金を受給しているというふうなこともあります。ですから、

この学校法人、公益財団法人をいかにきちんとしたものができるかということがかなり大きな、実地的な、財政的な面を中心にして問題だろうなあと考えております。

○青山委員 それぞれの今学校においても、備前市内の学校においても生徒数が減っているとか、統廃合の問題もあつたりします。その手当てというふうなことが、ここのインターナショナルに向けてのことでおろそかになるというふうなことはありませんか。

○松畑教育長 私は少なくともそうなってはいけないし、そうならないというふうにほぼ確信しております。むしろ逆に、三石、吉永地区を重点地区で説明いたしましたように、インターナショナルスクールだけを作るわけじゃ決してありませんので、相乗効果で全体的に子供の数も他市、あるいは他の国から移住してきてどんどん順調にいけば増えていく方向でありますので、これがほかの現存の学校などに圧迫をして生徒数が減少したり、統廃合、その他の問題を加速するような状況にはならないと、ならないようにまたしなきゃいけないというふうに、私は強い思いで、むしろこのインターナショナルスクールを核とした国際教育都市・備前市という、この構想がどんどん進んでいくことが、全ての大きなこれからの教育の望ましい教育を最先端でいける備前市として進む大きな問題であるという認識していますので、今、青山委員が心配されるような点は、問題点として、課題としてはよく認識しておりますが、そうならないようにしたいし、できるもんだと確信しております。

○森本委員 さっき教育長のほうが3年計画と言われたんですけど、具体的にインターナショナルスクールの開校は、令和何年の何月を目標にされているのか教えてください。

○松畑教育長 今の一応の計画では、3年後ですから、7年度4月1日です。

一応目標です、今の段階は。これがもう一年ずれるということは、今後のあれによって変わってきますが、2年ということはまず絶対ないだろうとなあと考えていますが、早くて3年というふうに考えています。私の任期が3年間ですので、私が任期終わってから後の年度になりますけれども、大体のところはきちんと作っていきたいと思っていますので、私の個人的な目標もあつて一応3年を目標にしていますというふうに申し上げときます。これが結果的に4年度になる可能性もあり得るでしょうけれども、一応予定、努力目標としては令和6年4月以降に開校ができるようにしたいと。

○森本委員 ありがとうございます。7年で、取りあえずね。

このピラミッド型を見させていただいての御質問をさせてもらおうかと思うんですけど、教育長のほうからの各校・園長のほうに吉永と三石のほうにはもう伝えているというふうなお話がありました。これはちょっと具体的にはどういうことをされるのかなかなか見えないんですけど、それを教えていただきたいと思うんですけども。

○松畑教育長 少しだけは説明をしたつもりですけども、これはあくまでこうしてくださいということを、教育委員会として指定するような性格のものじゃないと、私は認識しているんですけども。ただ、例えばこういうふうなことを考えてほしいという、学校の特色をある程度出して

もらって、ここではスピーチコンテストをどんどんやっていくような形に本校はしたいとか、そういう考え方の違いは少しずつあっていいと。ただ、英語の授業として、どんどんほかの教科を少なくしてでも英語の授業をぜひ増やしてくださいとか、そういうことは考えておりません。それから、授業以外で可能な範囲、例えば、三石小学校で現在既にイングリッシュデイとして毎週金曜日にいろいろな活動しています。そしたら、例えば英語だったらヒアー、ユー、アー、給食なんかはね、渡すのは、ヒアー、ユー、アー、サンキューと言って、子供たちがすすすすと出ると、日本語じゃったら全然出ないんですけどというようなことを、小学校長先生は言うておられました。それは、極めて象徴的なことを表しているんです。というのは、日本語は、どうぞ、はい、ありがとうってなかなか言わないですよ、無言で渡して、たまにありがとうとか、どうもとかというぐらい、ちょっと言うぐらいで。ヒアー、ユー、アー、サンキューというのがもう定例の全ての人と言うようなところまで、英語は非常に表現性の高い言葉ですので、そういう方向で日本人の日本語としての問題点も見えてきたりするんですけど。

そういうことで、学校によってやり方や考え方は違っていいけども、英語の授業も英語の教育をしっかりコミュニケーション重視の方向で頑張ってください、それからそれ以外にはその学校が望ましいと思う形のことをやってくださいということで、それぞれ発表してもらって、お互いに参考にしながら学校の事例を増やしていきたいと考えています。

○森本委員 それと、ここに三石、吉永地区の6校・園を一つの学園とする幼小中一貫教育というのを書かれています。三石なんかは、小中一貫で式典も開いて、三石学園というふうな位置づけをされているんですけど、ここら辺に関しての位置づけはどういうふうにされていくんでしょうか。

○松畑教育長 小中一貫校として、今、学園を作られているのが三石と伊里、それ以外の学校もできたら来年度できるだけ早い時期にそういう小中一貫の学園としてしていただきたいと。それをベースにしながら、これは重点地区として6つの学校・園を一つの緩やかな国際教育、英語教育の重点地区としての学園を作ってもらって、お互いにこの6つの学校が一貫性と接続教育をきちんとやっていけるような形で進めていきたいと考えていますので、現在ある三石学園と新たなものは、特にそごというか、悪影響はないだろうと考えています。

○森本委員 今までは教育委員会は学園としては小中一貫してないけれども、そういう教育をしてきたんだというような御説明が今までありました。でも、さっき教育長が言われたのであれば、ほかの残っているところもしっかりそういうふうに小中一貫の学園として作っていくということを考えておられるということでしょうか。

○松畑教育長 必ず義務教育学校に全てをしますというふうなところは考えておりません。

それで、小中一貫の在り方というのは、いろいろな形があるので、その地域で、あるいはその学校・園で望ましい形をやってもらえばいいんじゃないかというふうに考えていますので、全てが、インターナショナルスクールが新しくできますので、義務教育学校にぜひしたいと、私は今

のところ考えておりますが、現存の学園については、小中一貫教育をできるだけ推進していくという原則に変わりありませんが、義務教育学校として再編していくという考え方は、今のところは持っていません。

○森本委員 インターナショナルスクールなんですけど、募集の人数は今のところ何人ぐらいに想定されているんですか。

○松畑教育長 一般的に言われているのは、1クラスが10人から15人までと考えていますので、これは規模をこれから第3次案に向けて具体的な検討をしてみたいと思いますが、1クラスであるとするれば、一学年15人までという形になるのかなあと思っています。

それから、2クラスになれば30人になりますので、これは規模、学校のどのような新築をするか、あるいはスタッフ、その他全部大きく変わってきますので、これからその辺の具体的なことを考えても、小さく産んで大きく育てるという意味からいえば、考えやすいのは1クラス15人までの学校として産むのがいいのかなというぐらいのところしか、今のところは考えておりません。

○森本委員 関連施設なんかで様々なところを挙げられています。まだ、山とか海とかというて、なかなか決まっていないうお話もあつたんですけど、これは新しい施設を建てられるということも想定の中ではあり得るんですか。それとも既存の施設を全てもうリフォームなり改築して使うという方向なんでしょうか。

○松畑教育長 結論的には両方を考えたいと思いますけど、本当に例えば旧神根小学校などの跡地利用というか、それを使うというの、これも大きな意味、これを改築したり、必要な施設を新築したりというのが一番第1候補としては考えやすい方向かなあと。あるいは非常に望ましい学校を、望ましい地区に全く新築のものを造るということも選択肢としてはあり得るかなあと。今の段階では、どちらかの方向を決めるということまではしておりません。第3次案、第4次案で、この4月、5月、6月のあたりまでに大体の方向性は決めたいなあと、場所なり、規模なりというようなことを決めていきたいと思っています。

○立川委員 田舎のじいちゃんからしたら、ちょっと理解半分、不安半分という気持ちでいっぱいでございますが、理念、その他については、リテラシー、いわゆる適切な表現というようなところの力は確かに欲しいんですけど、端的にお聞きをしますと、インターナショナルスクールというのが富裕層をターゲットでスタートしていると、ちょっと待ってください、というところの、いろんなところから、新聞記事であったり、さっき言ったようなネット記事があったりというようなことで理解はしておつたんですけども。備前市がこれほどまで関わるのかなあと。例えば、学校法人の設立であれば、三セクの方式なのか、それとも経営基盤は全く別で、募金というたらおかしいですね、納付金というんですかね、そういうところからのスタートするのか。もうその辺がちょっと大変気になるところなんですね。

だから、まず1点目は備前市はどこまで関わるんですかと、三セクをつくるところまでいくん

でしょうか、学校法人ですね。そこら辺の見解ちょっとお聞かせいただけたらと。

○松畑教育長 先ほど青山委員にお答えしたとおりで、最終的には誘致という形を基本的には考えていますので、市が全部面倒を見てやっていくような方式は、今のところは考えておりません。ですから、学校法人なり、財団法人をつかって、それが運営、教育をしていくような、管理していくような、それを市がどの程度、どのように関わっていくかは、これから具体的に検討を進めたいと思っています。

○立川委員 そこが一番聞きたかったんです。どう関わっていくのかと。備前市の事業としてどこを関わっていくのかと。おっしゃるとおり、誘致もひっくるめてやるんだらうなあと、学校法人なら三セクでつくるのかなあというあれはあったんですけど。果たして備前市の予算の枠でどこまで関わっていくのか。例えば、限られた人材の中でどこまで関わっていくのかというのが非常に気になったんで、今のお話ですと、誘致もそうですよと、それ今から備前市の関わり方を考えますというようなお話だったんで、あれどうなのかなという心配はちょっと湧きました。

それプラス、これはお答えいただきたいんですけど、経営基盤の確立というのは誘致すれば誘致の法人が財団法人であれば、学校法人であれば、その経営基盤の確立は、備前市の知らんことですよと、そちらでやってくださいということになるじゃないですか、お金の問題になりますから。じゃあ先ほどおっしゃったような神根や三国を直すにしても、設立の初期投資というのはやはりどっから出るのかなあと。もう新たな誘致をしたとして、誘致した学校法人が全部持ちますよという形でいくのか、その辺も明確に見えなかったんで、先ほどおっしゃったように、一度学校教育法と学習指導要領に基づく指導と、じゃあうちの子供はどっち行かしたらいいんやと、最初、教育長言われましたけど、学費も二、三百万円程度というようなことを言われましたけど、果たしてこの地域で、それは多分無理だと思いますので。じゃあ誘致、どういう方面からするのか。富裕層であればその本家のほうに行ってしまうんじゃないかという懸念もあって、経営基盤の確立と備前市の関わり方、大変気になるところなんですけど、今の時点で結構です、学校の運営に関するところはどう考えておられるのか、ちょっと教えてください。

○松畑教育長 財源と市の関わり方の問題と、これはこの問題の大きな肝になる問題であるというのは、同じ認識です。一つの考え方は、平たい言い方して税金を何十億円もかけてというようなことは基本的に考えにくいですよ。それは基本的には考えられないと。ですから、やはり国の補助金なり、日本財団、その他の補助金なり、あるいはふるさと納税なり、そういうプラスアルファ的な財源を持ってくることを考えないと、例えば市長は防災公園とかということを構想があったりするような答弁をしていると思いますが、そういう防災公園の一つとしてインターナショナルスクールなどを誘致、あるいはしていくというようなことも可能性としてはあるかなあとも思ったりしております。

実際の運営については、もう全部学校法人に全てお任せということにはならんだろうと。市からの望ましい教育委員会を中心にして学校法人の中心メンバーの一角にはきちんと入って、市と

民とか、公民連携の一体的な運営ができるような感じで進めたいとは思っています。今のところは、大体そこぐらいしか特に見込みがあるわけではありません。

○立川委員 ですから、三セクもひっくるめた考え方なのか、それともハロウ校みたいに、ザ・ナインのほうみたいにスポンサー持ってくるのか、その辺の感覚を聞きたかったんですけど、今の段階ではまだ不明確だということの解釈でよろしいですかね。スポンサーは見つかったんですか。

○松畑教育長 スポンサーは見つかっていませんし、そういうハロウ校的な、あるいは神石インターナショナルスクールのようなスポンサーに来てもらおうとは思っていません。

○立川委員 まだまだそこら辺の経営基盤のところ、初期投資についてもちょっと課題があるのかなあと、もう思いのほうは大変すばらしいなとは思いますが、実現性にちょっとそこら辺で、例えばもう大変失礼な言い方しますが、加計学園引っ張ってくるんやとか、そういったところから肉をつけてほしいなあと、僕大賛成です、令和版の閑谷学校というの。もうぜひその辺ちょっと御努力をいただいて、市のほうに負担がかからないように、これは多分人もかなり取られると思うんですよ。今の教育委員会の中でできるのかどうかというようなところもひっくるめて進めていただけたらなと思います。

○松畑教育長 立川委員から言われている点、全くそうで、例えば最後に言われたような、市として、教育委員会としての体制というのについても、予算のほうにも計上させてもらっていますように、ある程度これは専門的な能力を持った人材を来ていただいて、その人たちが中心になって進めていくような形じゃないと、これはなかなか進まないと思っていますので、今の組織の中にもありますように、4部体制で国際教育部というものをきちんと立って、新しい人材も増やして、それからついでに言いますと、場所も5の1の会議室は教育委員会の事務局が使うという形に内部で承諾してもらっていますので、そういう方向に、だから教育委員会としてのスペース的にも、人間的にもそれなりに必要な者を増やして、例えば図書館でもそうなんですけど、図書館について、例えば言いますと、図書館の日常的な業務は今までの図書館を中心にした係がやっていきます。ただ新しい図書館については、新しい図書館の推進室が中心になってやってきますというふうにさび分けをしながら、人的にも、職内容的にも、体制的にも、そういう違いを持って充実した形でやらないとできないだろうと思っています。

ですから、先ほど、例えばと例で言っていた加計学園などがやってもらうというのは、十分可能性としては私もあり得ると思っています、あそこは国際バカロレアを実際にやっていますから。大学の学部のほうもバカロレアの人材育成もしているんですね。中高もバカロレア認定校なんです。ですから、それは十分可能性はあると思うんで、そういうことも含めてどのような学校を、先ほどから言いますように、誘致といってもいろいろ広いので、非常に超富裕層しか入れないような、そういうものは考えておりませんが、望ましい備前市の身丈に合った、そういう学校であれば十分誘致が考えられるんじゃないかと考えております。

○立川委員 負担のないように理想に向かってお願いできたらなと思います。

話は変わるんですけど、部長のほうが言われたBSOの事業のシートをちょっと見せていただいているんですが、事業費のところを見ると、1から3、いわゆるアウトドア関係ですね。人件費が979万5,000円、研究費が510万円、これは研究費用の中には有識者の謝礼や委託が入っていますよと。4、そのインターナショナルスクールの人件費が979万6,000円、研究費用、有識者の謝礼、どこに行くか分かりませんが、委託費が298万円というような事業内訳があるんですが、これについて事前にならない程度に、どういった人員を、どういう確保されるつもりなのか、どこへ委託されるのか、その辺ちょっと概略だけ教えていただけたらありがたいんですが。

○草加教育プロジェクト推進課長 それでは、私から主に（4）番になりますけれども、インターナショナルスクールに関係する人件費等について御説明をさせていただきます。

ここで想定をしておりますのは、英語教育関係者であったり、もう一番肝にしたいところは、先ほど来、教育長が申し上げている国際バカロレア認定取得についていろいろ御見識をお持ちの方、そういった方を、専門的な知識をお持ちの方ということで任期付きの職員として期間限定で採用をして、その方にいろいろな知見をいただきたいということで考えております。

また、委託費等につきましては、これは教育関係のアドバイスをいただけるような会社に人材派遣をしていただいて、併せて協力して事業を進めていきたいという内容で計上しております。

○波多野社会教育課長 今、草加課長のほうから（4）について概略をお答えいたしました、私のほうからは、（1）から（3）まで、推進に係る人件費は同じように任期付職員でアウトドアスポーツ、あるいはアウトドア活動、それからESD、SDGsにもたけた人材を採用する予定としております。

研究費用の518万円の中身ですけども、講師謝礼といたしましては、令和4年の秋に考えております八塔寺のアウトドアスポーツ祭に向けてのコーディネーターの謝礼が18万円で、人材派遣、これもそのスタッフを人材派遣をしていただく費用が200万円、それから八塔寺アウトドアスポーツ祭の実行委員会への補助金が300万円の518万円でございます。

○立川委員 前半の人件費なんですが、これは人数はお一人だけなんですか。

○草加教育プロジェクト推進課長 想定をしております人数は1名です。

○波多野社会教育課長 1と3も同様で1名でございます。

○立川委員 委託費なんかも、実行委員会の給付金なんかも入ったり、もう何もかも一緒くたでぼこんといくなあという印象を受けました。これで、コーディネーターさんも必要なんですけど、全くこれは丸投げしてしまっただけ職員さん関わらないということになるんでしょうか。

○波多野社会教育課長 もちろん本格的に動くのは議決後ということになりますが、1から3につきましては、ただいま八塔寺の村長さんとの交渉であるとか、それからふるさと農園さんとの交渉であるとか、それからアウトドアスポーツ祭につきましても、今現在クロスカントリーやオ

リエンテーリング等を母体としたものを私ども職員の方で概略構想はつくっております。それにBSOとしての専門的知識を入れていただくということで、職員も同じように地元との関わりの中、関わっていく形を考えております。

○松畑教育長 委託をどっかに丸投げしてやってもらうのかということに対しては、そういうことを考えていません。

というのは、そのために専門の知識をちゃんと持った人を中心になりながら、あるいは実行委員会などで月に1回とか、非常勤手当のような形で支払うような場合とか、あるいは先ほど申し上げましたように、4部体制にして、人数もできたら15人、20人と現スタッフよりも増やす方向で私たちは希望を出しております、それは最終的にどうなるか分かりませんが、そういうふうにしてほかの、それから例えば(1)から(3)については、両備ホールディングスと包括協定を結んでいます。あるいは岡山大学とも(4)などを中心にして結んでおります。だから、そういうところとの協力をしながら、そういう知見や実際に来てもらってそれに必要な謝礼とかというのは発生してくるでしょうけども、そういうな形でもう実質的には教育委員会の内部で作り上げていくと。そういう形を考えていますから、どっかにお願いしてという、そこに結論を待って、それを受けてやるというような一般的な委託は考えておりません。

○立川委員 あまり詳しいことはこの場でもあれなんですけど、ちょっとそういうことが気になったもので、(4)にしても、職員さん、されるのどこへ委託するのかなと思ったりしたもので、ちょっとお尋ねをしました。

いずれにしても、今、教育長おっしゃっていただいたんですけど、すごいなあ、教育委員会さんの人員が増えたのかなあという思いでいっぱいでした。

○中西委員長 ほかにございますか。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、次に報告を願います。

○石原教育部長 それでは、私からお手元配付資料にあります備前市教育委員会事務局組織変更図について概要を御説明いたします。

現在、教育委員会は1部6課体制にありますが、市長部局の令和4年度4月1日機構改革予定に合わせ、教育長の構想推進体制を整えるため、本教育委員会も機構改革を行うもので、現行の1部6課体制を4部1室10課体制にしようとするものであります。

まず、教育振興部につきましては、教育プロジェクト推進課を教育総務課に改め、小中一貫教育課と幼児教育課の3課体制であります。

次に、新たに社会教育部を設け、図書館事業推進室を部内に設置し、図書館建設に関する業務を、市長部局から戻し、ハード面、ソフト面共に取り組んでいくものであります。

そして、図書館事業推進室の下に、図書館プロジェクト推進課を設け、図書館システム推進係

でまちじゅうどこでも図書館構想をシステムとして構築していこうというものであります。

また、支援員養成係を設置し、図書館でのコンシェルジュ、ボランティア、図書館司書等を養成していくなど、図書館事業に関するハード面、ソフト面をこの室、課で担っていこうとするものであります。

なお、社会教育部の主管課は、社会教育課としてそれぞれ名称をスポーツ文化の前に教育という名称を加えております。この趣旨は、新たに市長部局に、文化観光部の中にツーリズムの視点から、文化面でのツーリズム、スポーツ面でのツーリズム、そういった区分けをするために名称を改称するものであります。

次に、新設の教育まちづくり推進部ですが、まず教育プロジェクト推進課においては、新しい備前市の教育大綱に基づいて、教育の重要施策などを様々な取組をプロジェクトとして推進していく部署であります。

地域教育課は、教育長のまちじゅう大学校構想をはじめ、先ほどの備前シンフォニック・オアシス構想の中で、主に八塔寺を中心とした青少年文化スポーツプラザ、アウトドア活動、アウトドア観光を推進していく部署になります。

次に、新設の国際教育推進部は、国際教育課として、まず国際教育係においては、国際教育の推進の下、備前シンフォニック・オアシス構想の中で、主にインターナショナルスクールの推進に関することを担い、英語教育係では、市内全校・園における英語活動の推進をはじめ、備前シンフォニック・オアシス構想の中で、主にイングリッシュビレッジの推進に関することなどを担う部署になります。

以上、全体としましては4部1室10課体制となることから、教育委員会事務局の名称を教育庁と改称し、令和4年度から教育行政をさらに推進していく所存でございます。

なお、教育委員会会議におきましては、2月10日の定例会で本案を提示し、御審議をいただいているところでございます。

さらに、先日、臨時会を3月8日に開催し、本日の厚生文教委員会への提出も御理解をいただいているところでございます。

今後の予定としましては、3月18日の教育委員会会議定例会において最終審議を予定しております。

○中西委員長 委員の皆さんからの質疑を、発言を許可いたします。

○立川委員 機構改革ですから、我々がどうこうはあれなんですけど。

1点だけ、最初にこれを見た感想だけ申し上げときます。

うわあ人がいっぱい増えたんやなあという、そういう感想を持つんですが、大丈夫なんですか。今でも、言葉は悪いですけど、教育委員会さんはちょっと仕事が早く終われない、ブラック的な部署と認識はしておったんですが、これは多分現状では兼務兼務兼務兼務でしょう。兼務兼務になるじゃないかなという懸念があるんですが。

○石原教育部長 先ほど教育長の説明の中でもございましたが、人数につきましては要望を人事サイドのほうにも申し上げているところがございます。最終的に決定されるのは、もちろん分かりませんが。

それから、外部からの専門性の高い方を採用して、そのような兼務の状態ではないということがないような形の要望・要請を、教育長から人事サイドのほうにお願いを申し上げているというのが現状でございます。

議員の御心配をいただいております点につきましても、そういうことがないような形の思いも含めての要請をさせていただいておりますので、現段階においては申し上げられる点としましては、以上のとおりでございます。

○立川委員 ということは、要請・要望が通ったらこういう組織にするよという解釈でよろしいんですか。

その要望が通らなくて、現状のままの人員やったら、変更前に戻るという解釈ですか。

○石原教育部長 要望にかかわらず、この機構案で最終的に18日の教育委員会会議で御審議をいただくもので、施行は令和4年4月1日ということでございます。

○立川委員 乱暴だと思われませんか。人数が増えればいいよと、人数が増えないのにこのままいって、要望が通らなくてもこのままいきますと。ということになれば、兼務じゃないですか。普通常識で考えて。

教育振興部、社会教育部、まちづくり推進部、図書館事業推進室、国際教育推進部できるわけでしょう。それぞれやっぱりリーダーが要るわけじゃないですか。その下に職員さんも要るわけじゃないですか。人員要望しているけど、人員要望が認められなかったら、現有勢力でやるわけでしょう。兼務になりませんかという懸念、非常に心配するところなんです。もう内示を受けて、オーケーよというのをもらっているんですか。

○石原教育部長 内示は一斉に行われるものですので、内々定的なお話はございません。

それから、図書館の図書館事業推進室につきましては、現在ハード面を市長部局で担っていただいております。ソフト面は、教育委員会で行っておりますけれども、それをもう統合して集中的にやっというところでございますので、ないものからハード事業をゼロからすることではございません。そういう認識にも現有勢力を投じていただけるものというふうに理解をしているところでございます。

○立川委員 職員の皆さんの職場環境だけは、十分配慮いただいて進めていただけたらと思いますけど、大変だと思えます。

それと、公民館でちょっとお聞きしたかったんですけど、公民館活動課があって、中央公民館があって、日生、吉永と中央公民館があるんですけど、これは名残なんじゃないんですか。

例えば、今、中央公民館の下に各地区の公民館があるじゃないですか、地域公民館が。片上なら片上、香登なら香登、三石にもありますけど。そういったところの変更を全く加味されない、

このまま日生のときあったから、吉永の分があったからということで残されたんですか。せっかく直しておられるのに、組織図に反映されていない地域公民館ありませんか。大丈夫ですか。

○波多野社会教育課長 公民館活動課がありまして、中央、日生、吉永の下に地区公民館、この中に片上、伊部、香登、東鶴、西鶴、伊里、三石等が含まれておりますので、この地区公民館という総称を使っております。

○立川委員 申し上げたのは、吉永も日生も地区公民館に入るんじゃないですかというところ。

○波多野社会教育課長 吉永、日生は、地域公民館という名称で条例化されておりますので、地区公民館とは呼び方は違っております。

○立川委員 いや、これはお願いですけど、その条例を私も見たんですけど、合併前の名残じゃないですかと。こういったところも実際やっていることはどうなんですかと、しっかり見直していただけたらありがたかったかなあという意見です。見直しする必要はないよというのであればですけど、同じことやってらっしゃるような気がするんで。何か特別日生地域公民館だから何かこういうのんやっていますとか、そんなんはあまり感じられないんで、地区公民館のくくりでもいいんじゃないかなと、御検討いただけたらということだけです。

イエス、ノーで結構です。

○波多野社会教育課長 はい。

○中西委員長 ほかにはございませんか。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

今日は、所管事務調査ということですので、これ以外の議題についても教育委員会さんのほうにお伺いをしたり、意見を述べたりすることができるわけですけども、ほかの議題はありませんでしょうか。

○藪内委員 すみません、ちょっと先ほどの、給食調理場統合事業についてなんですが、4施設の詳細が載っている資料を至急お出しいただけますでしょうか。

○草加教育プロジェクト推進課長 各施設の規模、概要、また建築年次や給食調理室、それから各部配送先の学校等を一覧にしたものを早急に御提出いたします。

○藪内委員 よろしく申し上げます。

○青山委員 部活動の土日の地域移行について、何点かお尋ねしたいんですけど。

先般の一般質問でもさせていただきまして、教育長のほうからも、まずは最大の課題が人材の確保であるというふうなことをおっしゃっていただきました。少子・高齢化といいますが、少子化になって、人口減等でなかなか子供たちがスポーツをする人数も減り、それから指導者の数も減ってきていると思うんですけど、そういう中で各種団体に対して、何かこの近い将来といいますが、来年から始まるわけなんで、その体制に対してどのような各種団体が今協力できるような体制があるかというふうなことのアンケートとか調査というふうなことを行われるということ

はないですか。

○波多野社会教育課長 アンケート調査につきましては、まず大前提といたしまして、令和5年度、必ず地域に持っていきなさいということではないと私どもは認識をしております。徐々に移行できるというような認識の中、学校側からの要望のほうをお聞きいたしまして、例えば備前市内の中学校がこのような部を地域に任せたいんだと、その要望に応じた団体にはアンケートを実施したいと私どもは思っております。

○青山委員 じゃあ、まず学校の要望を聞いて、その要望を基に各団体とかにアンケート等を行って状況を把握すると、これはいつ頃やられますか。

○波多野社会教育課長 地域のほうから積極的な意見というものは、今現在出ておりません。やはり部活動の地域移行、しかも休日ということですので、学校からの要望がまず第一と思います。私ども受け入れますけども、何か頼みたいことはございませんかというような、地域のほうからではなく、やはり学校のほうから要望が来て始めるということで、例えば新年度に入りましてすぐそのような御意見を頂戴しましたら、スポーツ協会とか、そういった任意団体の会合等がございますので、その際にアンケートは実施したいなと思っております。

○青山委員 なかなか地域も実態を知らないんじゃないかと思うんです。もう少しその辺のアナウンスをしていただいて、本当にこれが始まったら宙に浮くのは子供たちになると思うんです。そうならないように、例えば学校がやることなんだ、いや地域がやることなんだというふうなことにならないようにしていただくのは、行政の立場じゃないかなと思いますので、ぜひアナウンスをして、広く皆さんに共通理解、認識をしていただくようなことをしていただきたいと思うんですけど。

○波多野社会教育課長 もう私どものほうからは、いつでもアンケートは実施する所存でおりますので、小中一貫教育課のほうともそれは連携を取ってやっていきたいなあと思っております。

○青山委員 それからもう一点は、既存のその団体をお願いするというのもありますけど、先ほどのアウトドアスポーツ、八塔寺のことでも、いわゆるそれをコーディネートする何かやったり組織で、今回のスポーツ振興基本法のほうにも、スポーツコミッションを考えていくというようなことも載っております。そういう外部のいろんな組織も一緒になって、まちじゅうみんな教育じゃないですけど、そういうみんなに関わっていただくことによっていろんな課題が解決できるような、そういうふうなものも考えていく時期じゃないかなあというように思うんですけど、それについてはいかがですか。

○波多野社会教育課長 教育長のほうからBSOのアウトドア活動についての説明もありましたが、今までのスポーツイベントと違いまして、八塔寺の自然を中心ということで、従前の、例えば陸上競技とか、マラソンとかという発想とは違った発想が求められるというような認識がございます。しかも、アウトドアですので、昔やっていたオリエンテーリングと今のオリエンテーリングはどう違うのか、あとはどのような野外活動の可能性があるのかということをもございます

ので、推進に係る人件費にいたしましても、研究費用の委託費にいたしましても、そのような専門の方、あるいは実行委員会にもアウトドアスポーツを経験された方等にも入っていただきまして、コミッションに近い形で実行委員会をまずは組んで、令和4年度事業を実施したいと考えております。

○青山委員 コミッションの規模の大きい、小さいはあると思うんですけど、行政はもちろんですけど、学校であるとか、あるいは民間の業者であるとか、スポーツにおいてはスポーツ協会、それから商工会議所とか、観光協会とか、いろいろなものを包括したようなものがあるような課題に対応できるような組織化というのをお願いしたいと思います。

○西上副委員長 先ほどから、こちらの教育都市・備前市構想案の中にも、三石、吉永地区の英語特区の重点地区のお話が出てきましたけれども、備前市小中一貫教育基本計画が平成27年に策定されまして、備前市における小中学校一貫教育の姿ということで、備前中学校の小中学校一貫教育の中で、1中学校、それから5つの小学校についても小中一貫校とするというようなことが、平成27年の策定計画の中で発表され、やってきました。

備前中学校では、同じ中学校の同一地区の伊部小学校については施設一体型のモデル校として、また東鶴山小学校、そのほかでは、施設を分離型ということでやってきました。それについてのこれからの、三石地区、吉永地区が今クローズアップされておりますけれども、これからの備前中学校区の考え方、どういうふうに進んでいくのかなというのもひとつお話ししていただきたいと。

○松畑教育長 先ほど申し上げました、現在2つの学園しかない、伊里と三石か、それからあとの残りの3つの中学校区でいいますと。についてもそれを進めていくということで、一応小中一貫校ということを進めるということは、27年に決められて、それに向かってそれぞれの学校は既に進められているんですけども、その形とか、やり方、その他は全部違うようですので、それぞれの学校ごとに望ましい小中一貫校の在り方というのを今後とも検討しながら、さらに前進して、小中一貫の教育が前進していくように、今度接続教育マネジャーという形での、小から中、中から高、幼から小、そういう流れもつくっていくようにしています。一貫教育をさらに前進していくように、備前中学校についても同じように進めていく。だから、三石と吉永中学校については、一応重点地区として取り上げておりますけれども、その以外の学園、小中一貫教育の推進についても、それに準じて進めていきたいと思っております。

○西上副委員長 ありがとうございます。

平成28年度頃からこういうのが研究、試行をスタートされておるわけで、もう一つのもう調査の結果というのが大体もう四、五年たっていますから、出てるんじゃないかなと思うんですけども、どういうようなものが出ておるのか、お知らせしていただきたいと思うんですが。

○岩井小中一貫教育課長 小中一貫の、要するに成果というあたりになってくるんだろうという考えておりますが、小中一貫教育を現在も各中学校区で進めていく中で、やはり先生方の、学校

種の違いであったりとか、それからその教科教育の中で積み重ねの部分、そういう部分の理解というのが非常に進んだとは考えております。そういう面がやはり非常に大きな今後の教育については大事な部分になっていると思いますので、今はそれを本当に大事にしながら、当然先生方も入れ替わりがありますので、そういうものを備前市内の学校の文化として引き継いでいきたいなと考えております。

○西上副委員長 あの頃、ちょうど学区選択制の検討もせにゃあいけんということで、小中一貫教育計画の中でも、そういうお話をされたんですけども、このたびのインターナショナルスクールの中で非常に秀でた人は、こちらのインターナショナルスクールのほうへ編入といいますか、奨学金制度の充実によっていかれるということなんですけれども、学校選択制の検討の中から、こちらの学区選択の考えからは、これまた別物なのか、これはもう学区選択が認められるんか、それのお考えを教育長はいかがでしょう。

○松畑教育長 ありがとうございます。御指摘の点については、正直いいまして、よく検討進んでおりません。学区選択との関係の中で、インターナショナルスクールがお互いに、先ほどちょっと申し上げましたが、悪影響を及ぼさないような、そういう選択制なり、共存共栄をする形の規模なり、内容なり、そういうものをこれから早急に検討していきたいと思っております。

○中西委員長 暫時休憩いたします。

午前 11時59分 休憩

午後 0時59分 再開

○中西委員長 それでは、休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

発言希望される方の挙手でお願いいたします。

○森本委員 卒業式のことを学校とかにちょっとお返事をさせていただいたときに、現場のほうには既に入学・入園式のほうはどうですかねってというようなことも既に聞かれたんですけど、入園・入学式も、卒業式と同じように、保護者の方とか、人数制限とか、そういうのをかけられる予定なんでしょうか、まだ決まってないんでしょうか。

○松畑教育長 入学式については、諸般の事情を慎重に検討の上、もうしばらく、20日過ぎぐらいには決めたいと思っておりますけど、今のところは未定でございます。

○森本委員 卒業式のもあると思うんですけども、現場の方が混乱しないようにしっかりと決めていただいて、お電話させていただいたときは、どこからも御配慮いただいてありがとうございますというようなお返事だったので、そこら辺も含んでいただいてよく検討していただければと思いますので、お願いいたします。

○立川委員 先般の卒業式・卒園式の案内の件についてなんですが、ちょっと議会運営委員会でもお話が出た案件なんですけど、教育委員会の姿勢をお尋ねしておきたいと思っております。

といいますのは、2月の中旬ぐらいに、私、三石ですけど、各幼稚園、こども園、小学校、中学校、校長名でこんな事情ですってお控えいただけたらという文書をいただきました。丁寧やな

あとということで理解はしておきました。

ところが、直前になって、今度は教育長名で参加をしてください、ただし自分の判断でというような文書をいただきました。第一印象は、学校長と教育委員会ともめとんかなあと、そういう印象だったんです。事情をいろいろ聞いてみたら、そうじゃないと。ところが、やはり私だけと違って、もらわれた方、やっぱり似たような気持ちだったみたいです。学校のほうにもちょっと問合せをしてみますと、やはりさっき言われたように、やはりやはりと言いますけど、混乱と。これは業務分掌とまでいかないんですが、学校の権限、もう我々が今まで理解していたのは、学校の行事、その他は学校長権限と言うたらおかしいですけど、学校長の裁量でされているんだなあと、運動会にしろ、何にしろ、全部御案内は教育長、学校長名で来ておりました。

だから、それで仕事を侵すということでもないですけど、それを教育長名で出されたのは何でかなというところですね。権限が変わったのかどうか、今後そういった学校行事についても全て教育長名で来るのかなあとという姿勢について、まずちょっとお尋ねをさせてください。

○松畑教育長 今のお尋ねの件に限って申し上げますと、今までを特に変えるというつもりもありませんし、今後とも変える予定はありません。

というのは、行事、その他、学校が主催をして行うようなことについては、明らかに校長、園長が責任を持ってお知らせをするということは、もうこれは大原則であります。このたびなどのように、教育長名で出すというのは、今までも事例ございました。例えば、コロナについてでいいますと、コロナにこういうまん延防止が出たから、こういうレベルで、このようにしてくださいという、もう学校管理に差があっては困るような件については、教育長名で一斉に指示といたしますか、通達といたしますか、出すというのが今までも例がありましたし、今度の卒業式についてもそういうことですので、そういう特別な例については、今言いますように、全校・園について統一してこういうふうにやってもらいたいということについては、教育長名で出すと。しかもこれについては学校のほうから要請がありまして、学校にまちまちになったら困るので、教育長名で出してくださいという要望も実際に教校からもありました。そういうことも勘案して、これは全体としてあまり基本的なところで大きな校・園違いがあってはいけないなあと考えたものですから、教育長名で出しました。

○立川委員 特別なことという、今、御説明があったんですけど、現場は果たして混乱を来していたのは間違いないんであって、例えば中学校長会とか、小学校長会とか、そういうところからの依頼であれば分かるんですけど、おっしゃったように、僕ら、今、教育長がおっしゃったように、原則学校長名ですと、じゃあ統一してこういうふうにやんなさいよというのは、教育長名で各学校へ出されたらいいんじゃないですかねと、普通は思うんですけど、何か今回はだから意図があったのかなあと。業務が変わったのかなということでお尋ねしたんですが、今までどおり学校行事に関しては、はい、学校長名で出すというのは、もう変わらないということですか、変わらないというか、そうやったということですね。

○松畑教育長 そのとおりでございますが、ちょっと補足しますと、今回も教育長名で教育委員会から直接それぞれの学校の来賓に送ったわけじゃありません。送ったのは学校長の責任において、それぞれの事情に、どのような人に、どの程度、どのように送るかは、もう校長判断でやられる事項ですので、そこまで教育委員会教育長が指示するような権限ございませんので、そういう考え方はありません。

ですから、最終的には全て学校から出すんですけども、内容が内容だけ、こういう場合に限り教育長名として統一して出してほしいという要望と、それから教育委員会もそのほうがいと最終的には判断しましたので、教育長名で学校経由で各学校の来賓の方などに送ってもらったということでございます。

○立川委員 今のお話を聞きますと、全て学校側の責任で各御案内するところには出したよという解釈でいいわけですか。教育長名で出す、出さへんと、学校長名で出す、出さへんは、その学校の判断でということなんですか。

○松畑教育長 それはそうじゃなくて、最初に申しあげましたように、学校長の数名ですけども、要望もあって教育長名で統一した文書を出してほしいという要望に基づいて、例えば具体的には教育長名だけでも、実施の時間だとか、そういうところは学校によって違いますので、そういうところは学校で一部修正、加筆することはあり得るけど、基本的な文書そのものは教育長名で書いたものを、こことここはその学校に合わせて書き加えてくださいという形で教育委員会から学校にお送りして、学校から来賓に出したということです。

○立川委員 一部学校のほうから依頼があって教育長名で出してほしいと。ただし、内容についてはおっしゃるとおり、前段の御挨拶文があって、日時だとか、場所だとかは各学校で書きなさいと、そういう指示を送られたと。

○松畑教育長 そういうことです。

○立川委員 学校からの依頼ということなんですけど、校長会、その他の会議もあったと思いますが、いわゆる今までの慣例とはちょっとイレギュラーな、来賓どうこうという解釈なんですけど、これはすみません、違ったら教えてください。いわゆる市立学校ですから、設置者が多分市長にあると思います。所管が教育委員会教育長の責任だと思います。それぞれ学校単位は、権限とすれば校長が来賓を呼ぶと。さっきおっしゃったように、1類、2類という分け方がいいんかどうか分かりませんが、1類とすれば市長、設置者、それから管理者のところ、あと2類としてその来賓呼ばれるんなら地域の方とか、いろんな議員さんも含めて出すのは学校判断というところは、これでいいんですね。

○松畑教育長 はい。

○立川委員 そうするんであれば、じゃあ今までどおり学校長権限で送ってきてほしかったかなあと。最初に申しあげたように、それまでには学校長名でこらえてくださいと、言葉は悪いですけど、こういう状況に鑑みて御遠慮いただきますようにというお願い文が来た。何日かして、

教育長名でそういう御案内が来た。これは学校が言うこと聞いてないのかなあと。だから、業を煮やして教育長が出したのかなあとというふうに受け取る人もありまして、僕も最初ちらっとそう思ったんですけど、そういうことは全くないということで、権限もそのままですよと、今回の分については一部学校長よりの依頼があつて教育長が文書は出しましたと。教育長が文書を出した、そのまま送った学校と、それを校長名に変えて送った学校とはあるんですか。全て教育長名で送られた学校ばかりですか。

○松畑教育長 今まで申し上げますように、全て教育長名で一本化したものを送ってあるはず。そういうふうに依頼をしております。

ですので、ちょっと来賓に対する考え方は、学校と私たちとは少し違うんですが、私たちは設置者である市長、それから管理者の教育長は来賓とは思ってないですね。普通の来賓は、市の地区会の会長の人だとか、その他市議の方だとか、いろいろそういう方を来賓と言つとんですけども、そういうランクはありますけども、その全体を学校側は来賓と考えておるようですが、そういうことも含めて実施上の2月の中旬に送られたものは、こうこうで卒業式を行いますという案内文を校長名で出してあつたわけ、それぞれの学校、校・園から。それを今度は、来賓を呼ぶことに一応は変えますけれども、こういうことを注意してほしいというようなことは、もう微に入り細に入るところがあるので、その辺が学校によって異なると困るから、これを一本化しなきゃいけないという要望と我々の判断と、最終的に教育長として決断をして一本化したものを送ってもらって、一部学校長が必要なところを記入して、教育長名で全て送ってあるということです。

○立川委員 教育長のおっしゃられることは、大変よく分かるんですが、もう僕らも命令系統で仕事をずっとした経験もありますので、社長の命令でこうなさいよ、ただし出すのは先ほどおっしゃったように、現場の長である部長であつたりが出ししょうるわけですね。

○松畑教育長 そうです。

○立川委員 ほんなら教育長名で来たやつは、学校なりに照会したらいいわけですか。教育長名で来たやつをこの文書をしっかり捉えて、この文書で自分のところの中学校長名で出せばいいというふうに我々は思ったんですけど。そのままストレートに真ん中飛ばしてどぼっと来るから、あれつという雰囲気になるわけで、果たしてそういうふうにシステムが変わったのかなというのと、仲が悪いのかなあとというのと、両方受け取れたんで、大変残念に思いました。

その辺しっかり、現場も多分さっきおっしゃったように混乱していたと思いますので、しっかり早めにそういう命令系統というんですか、依頼系統はしていただきたいなあという願いです。

○松畑教育長 今おっしゃるお二人の方からの趣旨は全く同感であります。今回こういう形に、結果的にちぐはぐといたしますか、混乱あるいは手数をかけることに、学校側にも結果的になつてしまったようなことなどなどについては、もう全て教育長の責任でございますので、これは反省

すべき点は反省しなきゃ、こういうことが起こらないように今後ともできるだけ努力をするということにおいては、そのとおりであります。

いろいろできるだけコロナの感染の程度、その他もありましたもんですから、ぎりぎりのところまで判断を猶予というか、時間を取って、それから方針変更を基本的にはしましたので、これは単なる文書とか電話ではいけないと思って、私は基本的に全部の学校を回りました。結果的には、議会開催中だったので、25校中20校しか行けませんでしたけれども、全部行きました。

それで、こうこうで来賓を呼ばないことになっていたけど、呼ぶことにする。ただ、いろいろなことだという趣旨のことを、説明は全部回って理解、そのときにもいろいろ混乱して困るなあというような率直な意見は聞いております。それを聞いた上で、できるだけのことを文書にして、それから後日、数日後に、それぞれの学校・園なり、こども園に発送してもらったという経緯であります。

○立川委員 教育委員会は、やっぱり現場の学校・園、サポートしたり、盛り上げたりするところだなあと、管理監督はもちろんです。だから、さっきおっしゃったように、要らん気苦労とか、混乱は極力避けていただいて、現場をサポートしていただいている機関だと思っておりますので、ぜひともあんまりつまらんとするたら語弊がありますけど。依頼すべきことは依頼せなにかんのですけど、ある程度学校を応援してやっていただけたらなあという思いです。よろしくをお願いします。

○松畑教育長 はい、分かりました。

○中西委員長 ほかにはございませんか。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、所管事務調査を終了してよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

所管事務調査をそれでは終了いたします。

執行部の方は、御都合もおありだと思しますので、御退席をお願いいたします。御苦労さまでした。

***** 備前市健康づくり推進条例の一部改正について *****

委員の皆様には、これより備前市健康づくり推進条例の一部改正について御協議をいただきましたと思います。

先日の厚生文教委員会にて一部改正案を配付しておりますので、御用意ください。

前回の厚生文教委員会での御意見を基に、赤字で表記した部分を修正及び追記しております。

委員より御意見をいただきたいと思っております。

○立川委員 ありがとうございます。いろいろと御苦労をおかけいたしました。これは赤字のところだけということで見させてもらいましたが、これでいいと思うんですけど、ちょっと気に

なるのを一点だけ言ってもよろしいですか。

2条の8項、健康危機ということで書かれておるんですが、感染症、食中毒、飲料水の汚染、これは空気汚染、臭気は、その他でまとめておたらえんですかねえ。それとも、その他汚染の原因によって、文言を入れるほうがいいんか、その辺どうでしょうか。これで空気汚染も含まれているということでいいわけですか。

○中西委員長 はい。

○立川委員 はい、ほんなら結構です。

○中西委員長 ほかにはございませんでしょうか。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、本日の御協議を基に最終調整を行い、本会議最終日には発議案の提案を行います。なお、軽佻な語句の修正等は正副委員長に御一任いただけますでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ありがとうございます。

以上で本日の厚生文教委員会を閉会いたします。

委員の皆さんにおかれましては、この2年間の任期、議事運営に当たりまして大変御協力いただきまして、誠にありがとうございました。副委員長とも相談の上、5月には市議会議員選挙が行われるということで、4月のこの厚生文教委員会はなるべく中止をしたいと、特別なことがあれば皆さんにおいでいただくこともあるかと思いますが、その点よろしく願いいたします。

何分不慣れな委員長職でしたので、本当に皆さんに御迷惑かけましたけど、ここまでたどり着くことができました。本当にありがとうございました。

どうも御苦労さまでした。

午後1時18分 閉会